

## 2 ビルマ・香港ルート

### (1) ビルマルート三か月間閉鎖に至る経緯

1899

昭和13年4月19日  
在ラングーン金子領事代理より  
広田外務大臣宛

ビルマ・雲南間連絡道路の開設に関するビル

マ政庁要路の回答振り報告

機密第九三號

(接受日不明)

昭和十三年四月十九日

在蘭貢

領事代理 金子 豊治

外務大臣 廣田 弘毅殿

緬甸雲南間道路開設ニ對スル緬甸政府ノ態度

ニ關スル件

三月末緬甸議會閉會直後小官他用ヲ以テ總督參議「ブース、  
グレーヴリー」(國防部事務管掌)ヲ往訪ノ際「甚タ率直ナ  
カラ」ト前提シ

一、噂ニ依レハ上緬甸某地ト雲南府トヲ連絡スル自動車路ハ  
雨季開始(五月末)前開通シ又兩地間ノ連絡鐵路ハ在倫敦  
英支「シンヂケート」ノ出資ニ依リ建設サルルコトニ決  
定シ近日工事ニ着手スル豫定ナル處右御聞込ミノ次第ア  
リヤト質問シタルニ對シ自動車路ハ支那側ニ於テ銳意國  
境マテノ延長工事ヲ進メツツアルニ付不遠開通スヘシ但  
シ鐵路ノ計畫ニ付テハ何等承知セスト答ヘ

二、道路又ハ鐵路開通ノ際右ニ依リ緬甸經由雲南方面ヘ武器  
彈藥等支那側軍需品ノ輸入サルヘキコト必然ナリト存ス  
ル處右ニ對スル緬甸政府ノ方針如何ト質問シタルニ對シ  
緬甸ハ恰モ香港ト同一立場ニ置カルヘキモノニシテ政府  
ハ軍需品タルト商品タルトヲ問ハス之カ陸揚ゲ又ハ國內  
若ハ國境ノ通過ニ對シ一切干渉セサル方針ナリト答ヘ且  
是等軍需品ト雖一種ノ商品ニ外ナラサルカ故ニ是等ノ輸  
入又ハ通過ニ依リ緬甸ノ關稅收入ヲ増加スルコトハ反テ  
財務當局ノ喜フトコロナルヘシト述ヘ

三、最後に香港到着ノ軍需品ハ最近ノ情報ニ依レバ英國以外ノ外國製品反テ多量ヲ占メ居ルニ非ラスヤト反駁氣ニ附言シタルニ對シ小官ヨリ右ノ如キ情報ヲ聞込ミタルコトアルモ右ハ原產地國別數量指示シタルモノニシテ之カ實際ノ取扱者及運搬船ハ大部分英國商人及英國船ナリトノ噂ナリト應酬シ置キタリ

以上同參議ノ口吻ヨリ察スルニ緬甸政府ハ上記支那側ノ道路延長工事ニ好意的援助ヲ與ヘ之カ完成ヲ俟チ緬甸ヲ通シテ雲南、貴州乃至四川省方面ヘノ經濟的乃至政治的勢力ノ扶植ヲ企圖シツツアルモノノ如ク觀セラレ旁々其ノ第一歩トシテ右連絡道路開通後ノ緬甸政府側ノ動向ハ嚴ニ注視ノ要アル處右事前ノ措置トシテ緬甸政府ニ對シ小官ヨリ何等カ申入レ其他ノ方策ヲ講スル要アルニ於テハ御氣附ノ點ト併テ何分ノ儀折返シ御回示相成様致度シ

追テ「ブース、グレーヴリー」以下ノ國防部(外交事務兼掌)部員ハ總督ニ隨伴シ恆例ニ依リ四月初上緬甸「メイミヨー」ニ避暑轉居シ大体五月末當地ニ歸還ノ筈ナリ爲念申添フ

本信寫送付先 在英大使 甲谷陀總領事 在暹公使

1900

昭和13年11月10日 在ラングーン金子領事より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマ經由雲南向け軍需品輸送に関する情報報告

ラングーン 11月10日後発  
本 省 11月11日前着

第六〇號(極秘)

往電第五八號ニ關シ

一、武器、爆彈、飛行機等約六〇〇〇噸ヲ満載セル英國船 Stanhal 八日當地「ヘイスチング」沖着支那人官吏等乗込ミ居リ嚴重ナル警戒裡ニ支那總領事及緬甸官憲ノ往復頻繁ナルカ右ハ一兩日中「イラワジー」船會社ノ河船ニ積換ヘ「マンダレー」又ハ「バーモ」ヘ運ハルル筈ニテ此ノ種ノ運送船ハ年末迄ニ更ニ四隻到着ノ由

一、獨逸領事ノ談ニ依レハ雲南向軍需品ハ當地「スチール、ブラザー」商會ニテ一手ニ引受ケ支那總領事ハ引渡ス取極ナル由

一、「ラシオ」ヨリ雲南國境ニ至ル緬甸側ノ新設道路(ムセ)迄一一三哩)ハ本月一日以降日中一般交通ヲ鎖シ同地ヨリ國境向軍需品ヲ満載シ三分間置キニ出發スル「ト

ラック」(平均二噸積)三三〇臺ノ専用通路ニ充テラレアル旨現地通信トシテ緬甸字新聞ニ掲載サレタリ(本間書記生目下現地附近へ出張中)

一、數日前 R. Y. Cheng ト稱スル支那人其ノ妻外四名帶同當地着既報ノ支那人技師ト行動ヲ共ニシ居ル處右ハ香港發閣下宛電報第一四一四號所報ノ任務ヲ帶ヒ居ルモノト認メラル

英、甲谷陀、暹、河内、香港へ暗送セリ

1901  
昭和13年11月15日  
在ラングーン金子領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中国向け軍需品のビルマ領内通過を事実上容認するビルマ政庁の態度について

ラングーン 11月15日後発  
本省 11月15日夜着

第六三號

往電第六〇號ニ關シ

十五日「ブース、グレブリ」(國防部長官)ヲ往訪シ「スタンホール」號ノ支那向武器ト之ニ關聯スル支那側派遣員ノ

活動等ニ付小官持合せノ情報ヲ傳へ之ニ對スル政府ノ意見ヲ質シタル處同汽船ノ出港ニ付テハ今朝聞込ミタリト前提シ該積荷カ武器タルト否トヲ問ハス政府ハ商品トシテ取扱ヒ之カ國內通過ヲ禁止スル理由モナシト述へ四月十九日附拙信第九三號所報ノ趣旨ヲ繰返シタルニ付小官ヨリ右政府ノ方針ハ我方ニ對スル非友誼の措置ナリト解スト突込ミタルニ斯ル抗議ハ外交機關ヲ通シ爲サルハキモノナラスヤト逃ケ暗ニ此ノ種武器ノ搬入ヲ看過スル外ナシトノ態度ヲ持スルカ如ク見受ケタリ

因ニ該汽船ハ倫敦 J. A. Billmer 商會所屬(約六千噸)ニシテ坡西土ヨリ入港シ荷物ハ蘭貢西貢河内又ハ香港渡トナリ居ル由ナルモ未タ荷揚ニ着手セス

英、甲谷陀、暹、河内、新嘉坡、香港へ暗送セリ

1902  
昭和13年11月21日  
在ラングーン金子領事より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南向け武器輸送に対するビルマ人の反対に鑑みビルマ政庁が発出した声明書について

第六六號

往電第六二號二關シ

ラングーン 11月21日後発  
本 省 11月22日前着

「スタンホール」號ノ武器荷揚ハ二十一日正午ヨリ開始野砲六一門既ニ陸揚ケサレタルカ此ノ外機關銃及飛行機等ト共ニ鐵道ニ依リ「ラシヨ」ヘ爆發物ハ多分水路「マンダレ」ヘ送ラレ「ラシヨ」經由「トラツク」ニテ雲南ヘ搬入セラルル筈

政府ハ武器搬入ニ對スル緬甸人ノ囂々タル反對ニ鑑ミ三回ニ亘リ聲明書ヲ發シ本件貨物ハ稅關規則ニ違反セサル限り緬甸通過ヲ禁止スル理由ナシト言ヒ又右軍需船碇泊ニ依リ緬甸力空襲サルル惧ナシト述ヘタリ

英ヘ轉電セリ

甲谷陀、新嘉坡、暹、河内、香港、古倫母ヘ暗送セリ

~~~~~

1903

昭和13年11月29日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマ經由対中軍需物資輸送を禁止するよう

英国外務省極東部長へ申入れについて

付記 昭和十三年十二月八日

右禁輸に関する有田外務大臣より在本邦クレ  
ーギー英国大使宛申入れ要旨

ロンドン 11月29日後発  
本 省 11月30日前着

第九四二號

貴電第三八六號ニ關シ(緬甸經由對支武器輸送ニ關スル件)二十八日岡本ヲシテ極東部長ヲ往訪在蘭貢領事ヨリノ累次來電ノ趣旨ヲ情報トシテ説明シ英國政府ニ於テ至急緬甸政府ヲシテ支那向武器、軍需品ノ緬甸通過輸送ヲ禁止セシムル様措置セラレ度キ旨申入レシメタル處同部長ハ一々書取リタル上本件ハ香港ニ於ケル從前ノ事態ト同様ニ法律的ニ相當面倒ナル問題ニシテ英國トシテハ日本向武器輸送ヲ禁止シ居ラサルノミナラス當國ニ於テハ支那ニ同情ヲ寄スル個人團體ヨリ政府ハ聯盟ニ於テ對支援助決議ニ参加セルニモ拘ラス何事モ爲サストテ頻リニ攻撃ヲ受ケ居ル際ナルニモ鑑ミ日本側申出アラハトテ禁止の措置ヲ執ルコトハ多大ノ困難アルヘキヲ惧ルト述ヘタルニ付岡本ヨリ斯ル説明ニ

テハ日本トシテ満足シ得ス英國側ハ從來蔣介石政府ヲ援助シ居ラスト繰返シ述ヘ來レルカ本件ノ如キハ明カニ英國ノ對支援助ノ實證ニシテ斯ル遣方ヲ斷然廢止セサル限り日英關係ノ改善ハ至難ナルコトヲ指摘セサルヲ得ス本件ハ大局ニ着眼シ政治的二至急處理セラレンコトヲ切望スト述ヘタル處同部長ハ日本側ハ英國側ノ熱望ニモ拘ラス支那現地ニ於ケル諸懸案ヲ殆ト全部解決セントハセサルニアラスヤトテ種々不滿ヲ述ヘ兎モ角本件ハ植民省ヲ通シ緬甸政府ト協議(本件ニ付緬甸政府ヨリ協議アリタルヲ承知セスト答フ)シ如何ナル措置ヲ執リ得ルヤ研究ノ上更ニ回答スヘシト約セル趣ナリ不取敢

蘭貢ヘ轉電セリ

### (付記)

緬甸經由對支武器輸送ニ關シ次回會見ノ際「クレীগー」英國大使ニ對シ大臣ヨリ左ノ趣旨申入ルルコトト致度<sup>編注</sup>

先般支那向武器ヲ搭載セル英國船「スタンホール」號歐洲方面ヨリ蘭貢ニ到着シ此ト關聯シテ支那要人緬甸政府筋ニ働きかけ居ルトノ情報アリタルニ基キ在蘭貢金子鎮

事ハ緬甸政府ニ「ブースグレーブリ」國防部長官ヲ往訪同長官ニ對シ右ノ情報ヲ傳ヘ緬甸政府ノ意見ヲ質シタル處同長官ハ右情報ヲ肯定スルト共ニ緬甸政府ハ支那向軍需品ノ同國通過ニ一切干涉セサル方針ナル趣旨ヲ述ヘタル趣ナリ

依而在倫敦岡本參事官ヲシテ英國外務省ニ極東部長ヲ往訪英國政府ニ於テ緬甸政府ヲシテ本件支那向軍需品ノ緬甸經由輸送ヲ禁止セシムル様至急措置アリタキ旨申入レシメタル處極東部長ハ植民省ヲ通ジ緬甸政府ト協議ノ上何分ノ回答ヲナスヘキ旨約シタル趣ナリ然ルニ其後當方ノ接受セル情報ニ依レバ右「スタンホール」號積載軍需品ハ蘭貢ニテ陸揚ノ上「ラシオ」經由雲南向輸送セラレ最近又支那向軍需品ヲ滿載セル諾威船蘭貢ニ入港荷役ヲ開始セル趣ナリ

廣東及武漢ノ失陷ニ依リ蔣介石ハ主要武器輸送路ヲ失ヒタル今日緬甸政府ニシテ本件軍需品輸送ニ關シ右ノ如キ方針ヲ執ラルルニ於テハ右ハ我國民ニ對シ英國ノ對蔣援助ノ事實ヲ立證スルコトナリ折角好轉シツアル我國民ノ對英感情ヲ刺戟シ日英國交調整ニ對シ面白カラサル

影響ヲ及スヘキ惧アルニ付此際緬甸政府ヲシテ同國經由對支武器輸送ヲ禁止セシムルタメ英本國政府ニ於テ至急適當ナル措置ヲ執ラレタク右帝國政府ノ希望貴使ヨリ貴國政府ニ傳達アリタシ

編 注 「一三、一二、八、申入スミ」との書き込みあり。

~~~~~

1904

昭和14年5月25日 在ニューヨーク若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南・ビルマ間鐵道建設および雲南・ハイ

フォン間鐵道輸送増加に関する報道報告

ニューヨーク 5月25日後発

本省 5月26日前着

第二〇九號

二十五日紐育「タイムス」所報二十四日「ダーデイン」重慶電報ニ依レハ佛國印度支那銀行ハ重慶ニ支店ヲ設置セル處右ハ海防雲南間鐵道輸送増加ニ基ク支那及印度支那間ノ經濟關係密接化ヲ反映スルモノト看做サルル旨及國府ハ元廣東市長曾養甫ヲ雲南緬甸鐵道建設委員長(本鐵道ハ數箇

月前ヨリ既ニ工事中)ニ任命セルカ其ノ任命ハ國府カ本鐵道ノ完成ニ躍起トナリ居ルコトヲ示スモノニテ本鐵道ノ大部分ハ英國ノ財政的援助ニ依リ建設セラルルモノノ如ク(英國ノ團匪賠償金基金ハ本鐵道建設ニ充當サレ居レリ)支那側ハ更ニ之カ爲英國ヨリ「クレヂット」獲得ノ確信スラ洩ラセル趣ナリ

尙同電ハ湖北省 Tassoyang 及 Suhsien 竝ニ浙江省杭州附近ニ於ケル支那側所報ヲ相當詳細ニ報道シ居レリ爲念米ハ郵送セリ

~~~~~

1905

昭和15年5月30日 在ラングーン久我(成美)領事より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマ經由雲南向けトラック搬入計画に関する

情報について

ラングーン 5月30日前発

本省 5月30日夜着

第八七號

最近重慶側ニ於テ米國製武器及「トラック」類ヲ滇甸公路經由蘭貢ヨリノ搬入ニ懸命トナリ居レルコトハ機密第一三

五號往信及往電第七九號ニ依リ察知セラルル所ナルカ四月  
初蘭貢市東端ノ廣場ニ新設シタル「トラツク」組立工場  
(中國寫眞創造廠ノ看板ヲ掲ク)ハ支那軍政部員張セイコウ  
之ヲ監督ニ當リ既ニ「トラツク」(主トシテ「ダツヂ」三  
噸積ミ)約一千臺完成シ居リ「モンスン」ノ盛リ以前ニ搬  
入ヲ終ル計畫ト考ヘラル又米國船ハ屢々之等ヲ持込ムヘシ  
ト考ヘラレ從テ演甸公路ノ爆撃一層切要ト存セラル  
泰ヘ暗送セリ

1906

昭和15年6月25日

有田外務大臣より  
在英國重光大使宛(電報)

ビルマルトによる援蔣物資の輸送禁止を要  
求する覚書をクレギー大使へ谷外務次官手  
交について

別電一 昭和十五年六月二十五日發有田外務大臣より

在英國重光大使宛第五一二號

右覚書

二 昭和十五年六月二十五日發有田外務大臣より

在英國重光大使宛第五一三號

援蔣ルート封鎖に関する谷外務次官申入れ要  
旨

本省 6月25日後8時發

第五一一號

二十四日在京「クレギー」英大使ノ來訪ヲ求メ次官ヨリ別  
電第五一二號ノ覺書ヲ手交シタル後別電第五一三號ノ通り  
申入レタルニ對シ同大使ハ緬甸經由重慶政權向軍需品ノ輸  
送ハ最近著シク減少シ(約三分ノ一トナレル由)居ル旨竝ニ  
重慶政權向武器其他軍需品ノ輸送停止ヲ求メラルルハ英國  
ニ對シ中立國以上ノモノヲ要求セラルルモノト考フ等述ヘ  
タル後政府ノ訓令ヲ待チ何分ノ儀回答スヘキ旨答ヘタル趣  
ナリ

(別電二)

本省 6月25日後8時發

第五一二號

重慶政權ニ對スル緬甸經由武器、彈藥其他軍需品ノ輸送ハ  
今日尙盛ニ行ハレ居ル處帝國政府トシテハ重慶政權ニ對ス  
ル軍事行動遂行ノ必要上此ノ上前記物資ノ輸送繼續ヲ默過

スルコト能ハス就テハ英國政府ニ於テ武器彈藥ノミナラス諸燃料殊ニ「ガソリン」其ノ他「トラック」鐵道材料ノ如キ運輸資材等重慶政權ノ抗戦力増加ニ資スル物資ノ緬甸經由輸送停止ノ爲必要ナル措置ヲ至急實施セラレンコトヲ要望ス

(別電二)

本省 6月25日後8時発

第五一三號

重慶政府ニ對スル武器彈藥其他軍需品ハ從來主トシテ佛領印度支那及緬甸經由輸送セラレ居リタルコトハ御承知ノ通ニシテ緬甸經由ノ右輸送停止ニ關シテハ既ニ屢々英國側ノ善處ヲ要望シタル次第ナルカ今後佛國政府ハ佛印經由重慶政權向武器輸送停止方ニ關スル帝國政府申入ヲ受諾シ事實上佛印支國境ノ全面的閉鎖ヲ實施スルニ至レリ、然ルニ緬甸經由輸送ハ今日尙繼續セラレ居ル旨ノ確實ナル情報アリ殊ニ佛印方面ニ於ケル輸送停止ヨリ生スヘキ情勢ヲ察スルトキハ本地域經由ノ輸送ハ今後益々増加スヘク我方トシテ極メテ之ヲ重視セサルヲ得ス我國内ニ於テモ右援蔣行爲ニ

對スル不滿ノ念漸次熾烈トナリツツアリ此ノ上問題ヲ未決ノ儘放置スル時ハ日英間ニ不滿ノ紛糾ヲ生スルコトナキヲ保セス就テハ英國政府ニ於テ武器彈藥ノミナラス諸燃料特ニ「ガソリン」其他「トラック」鐵道材料ノ如キ運輸資材等蔣政權ノ抗戦力ヲ増加スル物資ノ緬甸經由輸送停止ヲ至急實行セラルルト共ニ帝國政府ノ納得シ得ル方法ニ依リ其ノ結果ヲ實證セラルル様措置方此ノ際強ク要望スル次第ニテ英國側ノ迅速ナル回答ヲ期待スル次第ナリ  
尙香港等ヲ仲繼トシ温州、福州、寧波其他ノ支那沿岸地方ヲ經テ多量ノ武器其他軍需品カ祕カニ重慶政府向輸送セラレ居ルニ鑑ミ之カ嚴重取締方要望ス



1907 昭和15年7月4日 有田外務大臣より  
在英國重光大使宛(電報)

援蔣ルート封鎖要求に対する英國政府の回答  
遅延をクレイギー大使弁明について

本省 7月4日発

第五五〇號

「四日「クレイギー」大使ハ次官ニ對シ緬甸「ルート」問



題ニ關スル本國政府ノ回答遲延シ居ルハ巷間噂サレルカ  
如ク米國ニ協議シ居ルカ爲ニ非ス米國ニハ委細「インフ  
ォーム」シ居ルモ協議シ居ル事實ナシ右遲延ノ原因ハ  
「ドミニオン」トノ聯絡ニ時日ヲ要スル爲ナリト陳辯シ  
タル上信スヘキ情報ニ依レハ香港英支國境方面ニ於テ一  
兩日中日英軍間ノ衝突アルヘシトノコトナルモ萬一右カ  
事實トスレハ日本ノ意思ニ反シ日英間ニ「グレープスチ  
ュエイション」ヲ惹起スル次第ニ付英國側ニ於テハ既ニ  
出先ニ對シ極力自制方を送リアリ日本側ニ於テモ何等カ  
措置セラルルヲ得ハ幸甚ナリト述ヘタリ

二、右ニ對シ次官ヨリ英側回答カ此ノ上遲延ヲ重ネ而モ不滿  
足ナル内容ノモノナルカ如キ場合ハ折角天津問題ニ關ス  
ル協定等ニ依リ日英關係ヲ改善セントスル過去ノ一切ノ  
努力カ水泡ニ歸スル次第ナルニ付テハ速ニ而モ日本政府  
ニ於テ満足シ得ル回答ヲ得ルコト望マシク本國政府ニ於  
テ日英關係ノ大局的見地ヨリ速ニ本件ヲ政治的ニ處理セ  
ラレ度キ旨強ク申入レ尙香港國境問題ニ付テハ何等斯ノ  
如キ事實有ルコトヲ承知セサル旨應酬シ置キタリ  
米、香港、河内、「ラングーン」、南京、上海、北京ニ轉電

セリ

1908

昭和15年7月9日

有田外務大臣より  
在英国重光大使宛(電報)

援蔣ルート封鎖要求に対する英國政府回答を  
クレイギー大使提出について

付記一 昭和十五年七月八日

右英國政府回答

二 昭和十五年七月九日付有田外務大臣より在本

邦クレイギー英國大使宛公信

日中和平に關する英國政府の協力提議を拒絶  
する旨回答

本省 7月9日發

第五六五號(極秘)

往電第五一一號ニ關シ

八日在京「クレイギー」英國大使大臣ヲ來訪シ英國政府  
回答トシテ

一、香港ヲ通スル支那向軍需品輸送ハ昨年一月以來事實上禁  
止セラレ又現在如何ナル種類ノ軍需資材モ輸送セラレ居

ラサルニ付日本ノ要求ハ既ニ滿タサレヤルモノト認ム  
 (「ク」大使持參ノ書キ物ニハ crossing the frontier トアリタルカ問答ノ末右ハ海上輸送ヲ含ムコトヲ承諾セリ)  
 一、緬甸ヲ通シ若干ノ武器彈藥カ蔣政權向輸送セラレ居ルハ事實ナルモ數量僅少ニシテ同政權ノ抗戰力増大ニ寄與セリトハ認メ難シ

一、武器彈藥ノ外燃料、燃料油、石油、「トラツク」鐵道材料等ノ輸送停止ヲ求メラルルハ了解ニ苦シム

一、輸送禁止ヲ要求セラルル物品中ニハ印度產「ビルマ」產品アリ之カ禁止ハ正當貿易ヲ阻害ス

一、第三國品ノ輸送停止ハ其ノ發送地點ニ於テ之ヲ爲スヲ適當トス

一、日本ノ要求ハ支那ニ對スル英國ノ中立地位ニ副ハス其ノ他西比利亞經由對獨物資輸送停止ニ關スル我方態度等ヲ擧ケタル後日本政府カ本件要求ヲ強要セラルルニ於テハ日英關係ヲ重大危機ニ導クモノト言ハサルヘカラサル處右カ日本政府ノ眞意ナリトハ信セス要スルニ緬甸「ルート」閉鎖ハ支那事變解決ノ一助タリ得ルニ過キス兩當事國ノ受諾シ得ル公平ナル平和ニ依ツテノミ現在ノ紛爭ヲ終了セシ

メ極東恆久平和ヲ齎ス解決ニ進ミ得ヘシトノ見地ヨリ英國政府ハ帝國政府ト協力討議スルノ用意アル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ヨリ右英國政府回答ハ帝國政府ニ於テ極メテ不足ナリト認ムル處本問題ノ解決ヲ遷延スルニ於テハ國民感情ノ惡化ヲ來シ日英兩國ノ友好關係ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞アルヲ以テ之カ解決ハ急ヲ要スルニ付英國政府ニ於テ速ニ我方要求ヲ容レ茲一週間乃至十日位ノ内ニ之カ解決ヲ計ルノ要アル次第ヲ強調シ置ケリ

米ニ轉電セリ

(付記一)

#### Stoppage of Supplies through Hongkong

The transit of munitions over the frontier of Hongkong has in fact been prohibited since January 1939 and no war materials of any kind are at present crossing the frontier. In these circumstances it would seem that the Japanese requirements have already been met.

#### Stoppage of Supplies through Burma

His Majesty's Government have taken note of the

views of the Japanese Government with regard to the transport of arms, ammunition and supplies via Burma to the National Government of China.

It is true that the passage of certain arms and munitions to the National Government of China does take place via Burma, but the total figures for 1939 and those for the first 5 months of 1940 lend no support to the view that this traffic affords any very material contribution to the armed strength of the Chinese National Government. For some time past the quantity of war material from the United Kingdom which was carried over the Burma route to China has been insignificant, and it is likely to remain so. His Majesty's Government therefore would find themselves unable to accept the view that the supply of war materials by Great Britain to the National Government of China is a direct cause of the prolongation of hostilities.

It is however noted that the Japanese Government in their communication refer not only to arms and ammunition but also to fuel, fuel-oil and petrol, trucks and

railway materials. His Majesty's Government find difficulty in appreciating the basis on which the request is made to stop the passage of these materials, certain of which are products of Burma itself. In so far as this route is a legitimate trade route which contributes to the welfare of the people of Burma and India, His Majesty's Government feel that in making this request the Japanese Government are asking them to take action which is inconsistent with their obligations to these two countries. Moreover the goods which pass over this route to China emanate from third Powers and if serious dislocation is not to be caused to the trade of those Powers it would seem necessary that any stoppage of supplies should be made at the source. Compliance with the Japanese request would in effect involve His Majesty's Government in a departure from neutrality and would amount to discrimination against China. In strict neutrality a request to cut off materials in question from China should involve a similar stoppage of supplies to Japan, but this of course is in no way the

intention of His Majesty's Government.

In connexion with the Japanese Government's request that the Burma route should be closed to traffic to China, it is not irrelevant to recall that His Majesty's Government have lately been endeavouring to secure the Japanese Government's assent to the stoppage of certain materials to Germany with whom the United Kingdom are explicitly at war. While the Japanese Government have indicated their willingness, under certain conditions, to arrange not to re-export to Germany goods which they have purchased from the British Empire, they have declined to give any assurances in respect of other Japanese imports, and have been unwilling even to discuss the limitation of exports via Siberia of goods produced in Japan and Manchukuo.

For all these reasons it will be evident to the Japanese Government that, were they to press their request, they would place His Majesty's Government in a position of great embarrassment. This could not but cause a serious crisis in Anglo-Japanese relations and His Majesty's

Government are unwilling to believe that this is in fact the desire of the Japanese Government. His Majesty's Government fully appreciate the anxiety of the Japanese Government to bring to an end the hostilities which His Majesty's Government have themselves from the outset deplored. But the closing of the Burma Road could at the best furnish only a partial solution of the problem which the Japanese Government have set themselves. His Majesty's Government venture to express the view that only by a just and equitable peace acceptable to both parties will the present unfortunate dispute be terminated and thus pave the way to a general and constructive settlement which will bring lasting peace and prosperity to the Far East. His Majesty's Government for their part are ready and willing to afford their cooperation and to enter upon discussions to achieve this end.

(中略)

Confidential

July 9th, 1940.

My dear Ambassador,

With regard to the suggestion which Your Excellency made toward the end of our yesterday's talk that the British Government would be willing to cooperate for the solution of the China incident and so on, I have since made careful consideration and come to a conclusion that the above suggestion would take a considerably long time to bear its fruit and consequently would not contribute to the speedy solution of the present problem. I request, therefore, that the above suggestion be regarded as unacceptable and that Your Excellency would be good enough to take immediate steps to cause Your Government to meet, by a means which I suggested yesterday as an example or by some other appropriate means, the request of the Japanese Government to close the Burma Road. As I told you on that occasion I am deeply concerned with the deplorable effects which further postponement of the solution of the present problem would possibly have on

Anglo-Japanese relations.

Yours very sincerely,

His Excellency

Sir Robert L. Craigie,

British Ambassador.

~~~~~

1909 昭和15年7月9日 有田外務大臣より  
在英国重光大使宛(電報)

援蔣ルート封鎖要求への英国回答を不満とし  
て至急適當の理由を設けてビルマルート一時  
禁絶方クレギー大使へ申入れについて

本省 7月9日発

第五六六號(館長符號扱、極祕)

往電第五六五號會談ノ際本大臣ヨリ「ク」大使ニ對シ本件  
ハ至急解決ヲ要スルヲ以テ英國政府ニ於テ不取敢曩ニ帝國  
政府ヨリ輸送禁遏方列舉セル重要品目中我方ノ重點ヲ置ク  
モノヲ選ビ適當ノ理由(例ヘハ公安ノ理由)ヲ設ケ一時禁輸  
トシ必要ニ應シ禁輸期間ヲ延長スル等ノ方法ニ依リ至急本  
問題ノ實際的解決ヲ計ルノ肝要ナル次第ヲ強調シ尙英側申

出ノ支那事變解決ニ關シ協力方ニ關シテハ研究ヲ約シ置キ  
タルカ九日熟考ノ結果之ヲ「ドロップ」スル旨「ク」ニ申  
入レタリ

貴使ヨリモ前記趣旨英國政府ニ申入レ置カレ度  
米ニ轉電セリ

~~~~~

1910

昭和15年 7月11日  
在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

米ソノビルマ經由対中軍需品輸送は阻止困難  
との英國外務次官弁明を反駁しビルマルート  
封鎖を実施するよう説得について

付 記 昭和十五年七月十三日發在英國重光大使より

有田外務大臣宛電報第一二二一号

ビルマルート封鎖を実現するための対英措置  
振りにつき意見具申

ロンドン 7月11日後發

本 省 7月12日後着

第一二二一號(極秘)

貴電第五六五號ニ關シ八日本使「バ」次官ニ面會緬甸問題

解決ノ急務ヲ力説シ「バ」ノ過日説明セル支那問題ヲ中心  
トスル理解アル態度ハ東京ニ於テハ「クレギー」ヨリ表示  
セラレサリシヲ遺憾トスル旨ヲモ附加シ置キタルカ「バ」  
ハ緬甸問題ニ付テハ英國產品ヲ阻止スルコトハ容易ナルモ  
緬甸(石油等)及印度產品ノ國境通過ノ外米蘇ノ軍需品輸送  
ハ阻止スルノ困難ナルヲ繰返シ述ヘタルニ付本使ヨリ「元  
來緬甸通過ノ問題ハ重慶援助ノ宣傳ニ使ハレタルヲ以テ人  
目ヲ惹キタルモ英國トシテハ實際的ニ如何様トモナル問題  
ニアラスヤ尙又最近頻リニ情報省其ノ他ヨリ英國ハ米、蘇  
ト聯繫シテ日本其ノ他ヲ抑ヘサルヘカラストノ趣旨放送セ  
ラレ居ルモ右ハ何カノ感違ト思ハル蘇聯カ英國ノ自由ニナ  
ルヤ否ヤハ別問題トシテ米國モ何等具體的利權ナキ支那問  
題ニ付日本ノ欲スル平和秩序ノ恢復ニ反對シ恰モ他人ノ家  
ニ來リテ主人ノ如ク振舞フコトハナササルヘク日本ハ東亞  
問題ハ自ラ處置スル重大ナル決意ヲ有スル次第ニテ英國モ  
支那問題ニ付テハ政治的目的ナシト既ニ言ハレ居ル次第ナ  
リ夫レニ拘ラス緬甸問題ノ如キ小問題ニ米蘇等ノ軍需品  
(右ハ他所ニ使用スルカ急務ナルヘシ)ヲ云々スルハ一應理  
論ノ如ク聞ユルモ日本人ハ英國カ米、蘇ヲ語ラヒテ日本ニ

壓迫ヲ加ヘントノ考ナリト反映シ<sup>(マ)</sup>而モ前述ノ如キ事實ハ何等壓迫ニハナラス唯惡感ノミ殘ス結果トナリ甚タ面白カラス尙路透新聞報道等モ此ノ邊ニ注意ヲ要スヘシ」ト述ヘタル處「バ」ハ其ノ邊ノコトハ成程了解セリ日本關係ハ是非共調節ヲ要スル次第第二付明日迄ニハ外相ト相談ノ上緬甸問題モ進捗ヲ見得ヘシト述ヘ居リタリ尙東京會談「クレギ」報告ハ先方ヨリ傳ヘ來リ居リ前記英國政府再回訓モ知ラセ越ス旨申シ居レリ

### (付記)

ロンドン 7月13日後發  
本省 7月14日夜着

#### 第一二二一號(館長符號扱)

往電第一二二一號ニ關シ

一、本件交渉ニ當リテハ我參謀本部カ英國ニ對シ脅迫の態度ヲ以テ開始セル經緯アリ九日外務省係官カ岡本ニ對シ貴地交渉内容ニ付説明セル際モ右ヲ指摘シ右カ本件措置ニ際シ英側ノ最モ困難ヲ感スル次第ナリト述ヘ居リ此ノ點ニ付テハ之迄一々報告ハセサリシモ先方ノ誤解ヲ解ク爲

當方トシテハ最モ苦心スル次第ナリ御承知ノ通り英國ニ對スル要求主張ハ飽迄強ク堅持スルコト之カ貫徹ノ素因ナルモ形式ハ充分考慮シ特ニ脅迫ニ亘ルカ如キ印象ヲ避クルコト交渉上必要ノコトト存ス

二、英國現政府ヲ構成スル各勢力ノ複雑ナル關係ニモ顧ミ本件解決促進ノ爲ニハ外務省筋ノ了解ハ勿論ノコト他ニモ手ヲ盡スコトカ必要ナリ特ニ首相ニ對シテハ其ノ昵懇者タル閣内有力者ヲシテ親シク之ヲ解セシムルト共ニ爾余ノ關係方面ヲモ啓發セルカ右ニ付テハ當館聯絡者ノ盡力大ナルコトヲ特記シタシ

三、日本ト英國トノ關係惡化ヲ企圖スル極左方面ハ蘇、支大使館ト聯絡シ凡ユル妨害ヲ試ミ右ハ内政問題トモ關聯シ左傾新聞ノ宣傳活動トナリタリ又英政府内ニ勢力ヲ有スル保守黨左傾分子ハ元來連帶保障派ニテ此ノ點勞働黨ト對支感情ヲ等シクシ極左勢力ノ策動ニ乗セラルル傾向アルハ注意ヲ要ス尤モ對獨戰遂行ノ大目的ノ爲ニハ對日關係ヲ顧慮改善スルコト必要ナリトノ點ニ於テハ大体異存ナキカ如シ「ハリファックス」「バトラ」等ノ穩健意見採用ヲ見ルニ至レルモノト思ハル尙情報ニ依レハ首相

ハ日本ト事ヲ構フヘカラストノ大体方針ヲ以テ當局ヲ指導セルカ労働黨内ニ於テハ「アトレイ」ハ稍態度緩和シ來リ日英關係改善ニ異議ヲ挿マサルモ感情家タル「グリーンウッド」ハ未タニ在野當時ト同様反日援支態度ヲ固執シ居ル趣ナリ

四、英國從來ノ新聞論調ハ外務省乃至情報省邊ノ意ヲ受ケ居ル處英國ノ外交方針ハ米蘇ト連繫シテ東ニ於テハ日本ヲ抑ヘ西ニ於テハ獨逸ニ對抗スルニアリト言フ種類ノ宣傳主張專ラナリシカ當方諜報者カ米國大使館ヨリ聞知セル所ニ依レハ「ケネデー」カ英外務當局ト會談中本件ニ言及セル際米國トシテハ英國カ余リニ米國ヲ引合ヒニ出スコトハ寧ロ迷惑ナリトノ意味合ヲ應答セルヤニテ右ハ或ハ米大統領ノ祕書ノ「モンロー」主義ニ關スル發表ト幾分ノ符合アルヤニモ思ハレタリ由來支那問題ニ付テハ英米カ常ニ密接協力シ居ルヤニ想像セラレ勝ニテ又右様ノ宣傳頻リニ行ハレルモ本使ノ見ル所ハ必スシモ然ラス米國ハ目下内政及歐洲問題ニ没頭シ居ル際ニテ日本ノ行動又ハ主張ニシテ極端ニ亘ラサル限りハ必スシモ英國ノ自由ニ甘ンスルモノニアラス他方英國モ亦可成リ自主的ニ

働キ居ル様認メラレ從テ本使ハ十日「バ」次官(往電第一二一一號)ニ對シテモ英國側ハ米蘇ト合作シ日本ヲ牽制スルヤニ宣傳シ居ルモ帝國ノ覺悟ハ之ニテ左右セラレス又米國トシテモ如斯ク愚ナル態度ニ出テサルヘキヲ確信ストノ趣旨ニテ英國側ノ反省ヲ促シ置キタル次第ナリ次ニ今次事件ニ關聯シ南京、重慶兩政府カ妥協シ平和克服ヲ見ハ日英問題ハ自ラ解消スヘシトノ見地ヨリ英國内ニモ右ヲ促進シ度トノ氣持働キツツアリ右ハ漸次米國ニモ波及セストモ限ラス何レニセヨ支那問題ニ對シ直接間接ノ勢力ヲ有スル英米ノ氣持ヲ漸次轉換セシメ支那ノ平和恢復ニ間接ニ好意ヲ持タシムル様啓發誘導スルコト有益ナルヘシト存セラル

1911

昭和15年7月13日 有田外務大臣より  
在英国重光大使宛(電報)

ビルマ經由軍需物資輸送を三か月間停止する  
旨クレイギー大使回答について

付記一 右クレイギー大使口上書

二 右発表案



十二日「クレギー」大使本大臣ヲ來訪シ英政府從來ノ所見ヲ簡單ニ繰返シタル後緬甸「ルート」ノ問題ノ如キカ兩國間ニ存在スル間ハ更ニ大ナル問題ニ付冷靜且建設的二話ヲ進ムルコト不可能トナルヘキヲ顧慮シ英政府ハ三ヶ月ノ期間緬甸ヲ通スル軍用材料(武器、彈藥、「ガソリン」「トラック」更ニ本大臣ノ要求ニ依リ鐵道材料ヲ附加ス)ノ輸送ヲ停止スルコトト致度但シ右期間ニ於テ八日會談ノ際申入レタル最後ノ點即チ東亞ニ公正ナル平和ヲ招來スル様特ニ努力アリ度キ旨述ヘタルニ付本大臣ヨリ右禁輸カ完全ニ行ハルコトニ付領事館員等ヲシテ之カ檢査ニ當ラシムヘキ必要ヲ主張シタルニ「ク」ハ強硬ニ反對シ種々論議ヲ重ネタルカ輸出ノ狀況、數字等ハ充分ニ領事ニ供給スヘシトノコトニテ又領事乃至領事館員ノ緬甸各地ヲ旅行スルコトハ自由ナリトノ了解ニ落着ケリ尙「ク」ヨリ日本ニ於ケル反英運動ハ之ヲ停止セラレ度旨述ヘタルニ付本大臣ハ反英運動ニ付テハ從來ノ英國側遣リ方カ適當ナラサリシモノト思考ス英國側ハ日本ノ友好關係ノ要求ヲ容レ居ラルルモ天

津問題ノ如キ一年ヲ要シ本件ニ付テモ第一回ニテハ不満足ナル回答ヲ爲シ今回モ部分的ニ當方要求ヲ滿スカ如キ態度ニ出テラレ折角日本ノ要求ヲ容レラルルモ其ノ效果ハ極メテ薄キコトナルヘシトテ此ノ點ニ注意ヲ喚起シ置クト共ニ語ヲ繼ギ日本國民ノ對英反感ハ強ク今直ク大ナル效果ヲ期待シ難キ處自分ハ日英關係ヲ好クスルコトハ現狀ニテハ困難ナル故尠クトモ惡クセサルコトカ肝要ナリト思考スル旨述ヘタリ

尙期間ヲ三ヶ月トスルモ其ノ際再ヒ之ヲ延期セシムルコト可能ト認メタルヲ以テ之ヲ受諾シ置キタルカ本件ハ是ニテ一應妥結セルモノトシ發表ニ關シテハ目下審議中ニシテ多分十五日トナル豫定ナリ  
米ニ轉電セリ

(付記一)

ORAL

His Majesty's Government have given careful consideration to the report which I submitted to them immediately after my interview with Your Excellency on

the 8th instant. They still find difficulty in appreciating the basis on which the Japanese request for stopping the passage of war material through Burma has been made and no arguments have been adduced to shew either that the materials thus passing contribute substantially to the prolongation of hostilities or that there is any legal justification for a proposal which is inconsistent with the obligations of His Majesty's Government to Burma and India. They are nevertheless impressed with the importance of exploring the possibilities of bringing about peace in China and they realise that, so long as there exists between Great Britain and Japan so acute an issue as that raised by the transport of war material through Burma, the atmosphere is unlikely to improve sufficiently to permit of the wider problem being examined dispassionately and constructively.

His Majesty's Government would accordingly be prepared to suspend the transit of war material through Burma for a period of three months, on the understanding

that during this time special efforts would be made to bring about that just and equitable peace in the Far East to which reference was made in the communication which I made to Your Excellency on the 8th instant. The materials the transport of which would be prohibited consist of arms, ammunition, petrol and trucks, His Majesty's Government are not prepared to consider inclusion in the list of goods which do not directly contribute to the prosecution of hostilities and which in some cases are products of Burma and India.

I would add that in agreeing to make this restriction on Burma's trade His Majesty's Government assume that the Japanese Government would utilise the interval to discuss the suspension of the export of munitions to China with the third Powers from which they emanate.

His Majesty's Government are making this really considerable concession to Japanese opinion in face of great opposition, but they do so in the confident hope that it will lead to a genuine improvement in Anglo-Japanese relations.

Their position would become very difficult if nevertheless there is to be a continuance of hostility on the part of the Japanese public and press. His Majesty's Government have never accepted the view that they are in any way responsible for the prolongation of hostilities between Japan and China and the gesture they are now making is evidence of their intentions in this respect. They accordingly look to the Japanese Government to take prompt action to put an end to an anti-British campaign for the suppression of which little official effort has hitherto been discernible.

(半信不疑)

#### Draft announcement

As a result of discussions which have been proceeding between the British and Japanese Governments in regard to the transport of war materials through British territory to China, agreement has now been reached as follows:

Hongkong

The export of arms and ammunition from Hongkong has been prohibited since January 1939 and, as none of the war materials to which the Japanese Government attach importance are being exported, the requirements of the Japanese Government are already being met so far as this Colony is concerned.

#### Burma

The British Government have agreed to suspend for a period of three months the transit of arms and ammunition as well as of the following articles: petrol, trucks and railway material. The British authorities in Burma will satisfy the Japanese Consul-General in Rangoon in regard to the steps which they are taking to give effect to this prohibition.

1912

昭和15年7月14日  
在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

援蔣ルート封鎖に関する日英協定の成立が重  
慶政権に与えた衝動につき報告

第一四三三號

上海 7月14日後発  
本省 7月14日後着

緬甸香港通過援蔣物資輸送禁絶ニ關シ日英間ニ了解成立ノ  
報ハ重慶側ニ異常ナル衝動ヲ與ヘタルモノノ如ク十四日當  
地漢字紙ハ舉ツテ本件ニ關スル東京發「ルーター」電等ト  
共二十三日重慶發「ルーター」及中央社電等ヲ掲ケ重慶側  
ハ日本トシテハ勿論之ニ干渉スル權限ナキニ對シ支那側ハ  
緬甸「ルート」ハ國際「ルート」トシテ之カ繼續開放ヲ要  
求スル權利アリトナシ英國トシテモ大國タル名譽ノ爲又條  
約聯盟決議案ニ依リ當然日本ノ要求ヲ拒絶スル責任アリ其  
ノ極東政策ヲ變更シ再ヒ過去ノ錯誤ヲ繰返スヘキニ非ス日  
本ハ現在異常ノ困難ニ直面シ他國ト事ヲ構ヘス專ラ外交手  
段ヲ以テ其ノ目的達成ニ努メ居ルヲ以テ英國側ハ人心安定  
ト事態明朗化ノ爲正確ナル情報ヲ提供スルノ要アリ特ニ緬  
甸「ルート」ノ維持ハ英支友好關係ノ爲極メテ重視セラレ  
居レリトノ支那側各界ノ意見ヲ報シ居レリ  
北京、天津、南京大使、漢口ヘ轉電セリ  
香港ヘ暗送セリ

1913

昭和15年7月15日 有田外務大臣より  
在香港岡崎總領事宛(電報)

鐵道材料のラングーン向け積出しにつき香港

政庁に注意喚起方訓令

付記一 昭和十五年七月十三日付有田外務大臣より在

本邦クレギー英國大使宛半公信

香港經由軍需物資禁輸に関する確認

二 右和訳文

本省 7月15日発

第一七五號(至急)

貴電第三五九號後段ニ關シ

緬甸「ルート」ニ關シテハ本大臣發英宛電報第五七五號ノ  
通り英國側ニ於テ三箇月間鐵道材料ヲ含ム軍用資材ノ國境  
通過ヲ差止ムヘキ旨同意シ居リ又香港ニ付テハ往電第一六  
九號ノ通り鐵道材料ヲ含ム運輸資材カ海路蘭貢方面ニ輸送  
セラルコトナキモノト諒解スル旨我方ヨリ申入レ居ル次  
第二シテ(右ニ對シテハ英大使ヨリ直ニ本國ニ請訓セル旨  
竝ニ香港ニ於ケル輸出禁止軍需品ハ緬甸ニ於ケルト同様  
「ガソリン」「トラック」及鐵道材料ヲ含ムモノト諒解スル

旨回答アリ)此ノ際御來示ノ如キ支那側ニ轉送セラルル疑  
少ナカラサル鐵道材料ヲ蘭貢方面ニ輸出スルコトハ假令援  
蔣「ルート」閉鎖ニ關スル現在迄ノ日英間了解ニ違反セス  
トノ理窟ハ立テ得ヘケンモ少クトモ英國側ノ誠意ヲ疑ハシ  
ムルモノナルニ付テハ政廳側ニ對シ右ノ點ヲ指摘シ本件鐵  
道材料ノ性質ニ付更ニ詳細ナル説明ヲ求メラレ尙場合ニ依  
リ其ノ積出禁止ヲ勸告セラルルコトト致度  
尙在京英國大使館ニ對シテモ善處ヲ求メ置キタリ  
上海、南京(大)、廣東へ轉電セリ

(付記一)

13th July, 1940.

Dear Ambassador:

The written statement which you delivered to me at  
our conference on the 8th inst. as a statement of the views  
of the British Government contained the following passage:

“The transit of munitions over the frontier of  
Hongkong has in fact been prohibited since January  
1939 and no war materials of any kind are at present

crossing the frontier. In these circumstances it would  
seem that the Japanese requirements have already  
been met.”

Since the above statement referred to only the goods  
transported over the frontier of the British leased territory,  
I raised the question regarding the prohibition of the  
transportation of goods by sea, and you expressed your  
belief that quite naturally the necessary steps should have  
been taken to prohibit exportation by sea to the Chinese  
continent from Hongkong, and that the Japanese  
requirements had been fully met in reality by the British  
Government as far as Hongkong was concerned.

In view of this declaration on your part that the  
Japanese requirements have been fully met in reality by  
the British Government, it is understood by the Japanese  
Government that “war materials of kind” include naturally  
gasoline, trucks and other transportation materials, and  
that the measures for preventing their transit are being  
always enforced, and will continue to be enforced,

British Ambassador,

Tokyo.

(付記1)

昭和十五年七月十三日附有田外務大臣發

在京英國大使宛半公信譯文

拜啓陳者本月八日本大臣ニ於テ貴大使ト會談ノ際貴國政府ノ見解トシテ手交ヲ受ケタル文書ニ依レハ香港國境經由ノ軍需品輸送ハ客年一月以來事實上禁止セラレ居リ如何ナル種類ノ軍需品モ現在ノ處國境ヲ通過シ居ラス斯ノ如キ情況ナルヲ以テ日本ノ要求ハ既ニ充サレ居ルモノト見做サルヘキ旨ノ記述有之候右記述ニ關聯シ本大臣ヨリ右ハ香港租借地ヨリ國境ヲ越エテ輸出セラルル物資ニ付テノミ言及セラレ居ルモ海路ヨリスル物資輸送禁絶ノ問題ハ如何ナリ居ルヤト質問致シタル處貴大使ハ香港ヨリ海路支那大陸ニ向フ輸出ニ付キテモ禁止手段ノ執ラレ居ルヘキコトハ當然ナリト思考ス從テ香港ニ關スル限り實際上總テ日本ノ要求セラルル所ヲ應諾シ居ルモノト認メラルル旨回答致サレ候貴大使ニ於テ香港ノ關スル限り實際上總テ日本ノ要求セラ

regardless of whether or not Japanese forces remain at the frontier, while the prohibitory measures are being enforced regarding the transport by sea by means of not only junks but also vessels in general regardless of nationality, and that no possibility is afforded contraband commodities in stock at Hongkong to pass to Rangoon or adjacent ports.

It is the opinion of my Government that effecting of necessary arrangements through frank discussions between British and Japanese authorities on the spot concerning the strict enforcement of the above-mentioned prohibition would be useful, and believing the British Government will have no objection to it, I desire to request you to see that the necessary instructions in this respect are sent by the British Government to their authorities on the spot.

I am,

Yours faithfully,

His Excellency,

Sir Robert L. Craigie,

ルル所ヲ應諾シ居ルモノト認メラルル旨言明セラレタルニ鑑ミ前記「如何ナル種類ノ軍需品モ」ト云フ中ニハ當然「ガソリン」及「トラック」其ノ他ノ運輸資材等モ包含セラレ居ルモノト諒解スルト共ニ右禁止ノ措置ハ國境ニ於テハ帝國軍隊カ國境方面ニ在ルト否トニ拘ラス常ニ同様ノ禁止措置カ繼續實行セラレ又海上方面ニ於テハ獨リ戎克ノミナラス國籍ノ如何ヲ問ハス一般船舶ニ對シ一率ニ同様ノ禁止措置カ講セラレ尙又禁輸品ノ在香港「ストック」カ蘭貢方面ニ輸送セラルルカ如キコトハ無之モノト諒解致候  
更ニ又右輸送禁止カ確實ニ實行セラルルコトニ關シ日英兩國ノ現地官憲ニ於テ隔意ナキ協議ヲ遂ケタル上必要ナル取極ヲ爲スコト有益ナリト認メラレ貴方ニ於テモ此點御異存ナキモノト思考セラルル處貴國政府ニ於テ現地官憲ニ對シ此ノ點ニ關スル必要ナル指令ヲ與ヘラルル様御取計相成度此段得貴意候

敬 具

昭和十五年七月十三日

外務大臣 有田 八郎

在京英國大使

「サー・ロバート・クレীগー」閣下

1914

昭和15年7月15日 有田外務大臣  
在本邦クレীগー英國大使 會談

援蔣ルート封鎖に関する発表振りをめぐりク

レীগー大使が種々要望について

支那向物資ノ「ビルマ」又ハ香港經由輸送禁絶問題

ニ關スル發表方ノ件

十五日英大使本大臣ヲ來訪、「ビルマ」、香港援蔣「ルート」遮斷ニ關スル日英共同「コミュニケ」ノ内容トシテ左ノ約發表シ度シト申出デタリ

「香港ヨリノ武器彈藥ノ輸出ハ一九三九年一月以來禁止セラレ現在ハ日本政府ノ重視スル如何ナル軍需資材モ同地ヨリ輸出セラレ住ラズ、又英國政府ハ爾今三ヶ月間武器、彈藥並ニ「ガソリン」、「トラック」及鐵道材料ノ「ビルマ」通過輸送ヲ停止スルコトニ同意セリ」

尙、同大使ハ英國政府ハ本件「ビルマ」經由輸送ノ三ヶ月間停止ハ此ノ期間内ニ極東ニ於ケル公正ナル和平ヲ齎ス爲特別ノ努力ガ爲サルベキ了解ノ下ニ之ヲ提議シタモノニシテ右期間内ニ平和到來セザル時ハ英國政府ハ爾後右停止ヲ續行セザルノ自由ヲ有スル旨一方的ニ聲明シ度シト申出デ

タリ

右ニ對シ本大臣ハ既ニ三ヶ月ト期間ヲ切ルコトニモ我方ニ於テハ強キ不滿アリタル次第ナルガ其レヲ三ヶ月ト其儘發表スル以上更ニ追加説明ノ必要ナシ、斯カル提案ハ「ハリファツクス」外相ノ考ニハ非ズシテ下僚ガ訓令ヲ書キタルモノトシカ思ハレズトテ強ク反駁シタルモ英大使ハ右ハ「ハ」外相自身ノ訓令ト認メラルトテ訓令ノ内容ヲ讀上ゲ、英國側ノ此ノ點ニ關スル希望ハ極メテ強キモノナルコトヲ縷々説明セリ、之ニ對シ本大臣ハ右ノ如キ發表ヲ爲サバ蔣ハ三ヶ月後ニハ再ビ英ヨリノ援助アルベシトテ却テ抗戰ヲ繼續スルコトトナリ英ノ期待ト反スル結果ニナルベキコトヲ説明シ、又三ヶ月ノ期間内ト雖モ我方ガ平和ヲ齎ス爲努力スルコトハ勿論ナルモ此ノ種ノ約束ヲ英國側ニ與フルモノニ非ザルコトハ先ニ明言セシ通ナリトテ種々反省ヲ促セリ

其ノ結果、結局英國議會ニ於テ左記程度ノ説明ヲナスコトハ差支無カルヘシトノ結論ニ達セリ

「英國政府ハ三ヶ月ノ期間内ニ極東ニ於ケル公正ナル平和ヲ齎ス爲特別ノ努力ガ爲サシベシトノ想定(assumption)

ノ下ニ本件取極ヲ提議シタルモノナリ」

尙、右ニ關聯シ「ク」大使ハ日本政府カ極東ニ於ケル平和ヲ齎ラス爲從來凡ユル努力ヲ爲シ又將來モ之ヲ繼續スルノ意向アルコトヲ明カニシ度シト言ヒタルモ本大臣ハ此ノ種ノ聲明ヲ爲スコトハ日本側ガ恰モ本件「ルート」遮斷實行ノ代償トシテ斯カル義務ヲ負ヒタルガ如キ感ヲ外間ニ與フベキ處日本ハ實際斯カル義務ヲ負ヒタル事實無シトテ反對シ唯英國議會ニ於テ質問アリタル場合英外相ヨリ「日本政府ニ於テハ從來右ノ努力ヲ爲シ來リ又將來モナスベキヲ信ズ」(I believe)ト述ブル程度ナラバ反對セズト言ヒタルニ「ク」ハ「信ズ」ニテハ不充分ニテ「日本政府ガ斯カルコトヲ言明セリ」トカ、已ムヲ得ザレバ「余(英外相)ハ斯クノ如キ報道ヲ受ケタリ」トカ云フ形式ニ改メテ貫ヒ度シト言ヒタルモ本大臣ハ強ク之ヲ拒絕セリ

尙、英大使ハ英國内政ノ都合上三ヶ月經過後英政府ハ本件取極ヲ繼續セザルノ自由ヲ有スト云フ點ヲセメテ議會ニ於ケル質問ノ際明カニシ度シト更ニ反覆セルモ本大臣ハ之ニモ反對シ種々論議ノ結果結局右質問ノ際「三ヶ月經過後英政府ハ時ノ情況ニ應ジ本件取極ヲ繼續シ又ハセザルノ自由



ヲ有ス」ト云フ程度ナラバ差支ヘ無カルベシトノコトニ落着ケルガ「ク」大使ハ本件會談ノ際右ノ點ハ内政上ノ必要ニ基ク次第ナルガ實際問題トシテハ恐ラク三ヶ月後モ禁輸ヲ繼續スルコトナルナラント述ベ居タリ

尙、「ビルマ」「ルート」遮斷ノ爲執フルベキ措置ニ付、英當局ヨリ資料供給等ニ依リ在蘭貢日本領事ニ満足ヲ與フベキ旨ノ發表ヲ爲シ度シトノ我方要求ヲ應諾セリ而シテ之ガ案文ニ付テハ種々商議ノ結果左記内容ニ纏マリタルガ外務當局ガ質問ニ應ジテ説明ヲ與フル形式ニ依リ發表スルコトトナレリ

「蘭貢及香港ニ於ケル日本領事官憲ハ本件禁輸ヲ有效ナラシムル爲取ラルベキ措置ニ關シテ英國官憲ト密接ナル連絡ヲ保持スベシ」

以 上

尙三ヶ月經過後ノ問題ニ付テハ右期間經過前ヨリ更ニ英側ト話合ヲ爲スベキコトニ關シ谷次官ト「ク」大使間ニ電話申合セノ次第モアルニ付本件共同「コミュニケ」發表ノ際、情報部長ニ於テ「右期間經過後モ我方トシテハ必要ニ應ジ禁輸繼續ノ爲英國側ト交渉スベキハ當然ニシテ右ニ付テハ

英國側ニ於テモ異議無キ旨」適當新聞記事トシテ掲載セシムル様措置スル筈。

~~~~~

1915

昭和15年7月15日

在ラングーン久我領事より  
有田外務大臣宛(電報)

ラシオに蓄積された軍需物資の雲南向け輸送を  
中国側が急ぎ実行しているとの情報について

ラングーン 7月15日後発

本 省 7月16日前着

第一四六號

「ラシオ」諜報(十三日發)

最近數日連日武器「ペトロル」「トラツク」積列車續々「ラシオ」ニ到着シ居リ同地武器倉庫蓄積ノ分ト共二直ニ雲南「チエファン」向ケ「トラツク」ニテ轉送シ居リ其ノ旺盛ナルコト未タ曾テナキ處ナリ同方面ノ總ユル「トラツク」ヲ驅リ集メ數百臺ヲ以テ終日終夜殆ト毎時雨中ニモ拘ラス間斷ナク運送シ居レリ之カ爲メ道路ハ各所ニ破綻ヲ來シ現二三千人ノ苦力十五臺ノ「スチームローラー」ヲ以テ破損箇所ノ修理ニ當リ居レリ緬甸政府側ハ支那側ニ對シ茲

一週間以内ニ滞荷ヲ國境外ニ搬出スヘシト警告ストノコトナルモ「ラシオ」ニ堆積セル武器ノミニテモ二週間以内ニハ搬出シ得サルヘク恐ラク一月ハ要スヘシトノコトナリ

~~~~~

1916

昭和15年 7月15日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

英国外相が重慶側に対し援蔣ルート封鎖問題  
を説明し対日和平実現を慫慂したとの情報に  
ついて

ロンドン 7月15日後発

本省 7月16日前着

第一二三〇號(至急)

往電第一二二九號ニ關シ

聞込ニ依レハ「ハリファックス」外相ハ兩三日前茅支那大使ヲ招致シ緬甸香港問題ニ關スル對日交渉經過ニ付英側態度ヲ説明セルカ其ノ際英國政府トシテハ支那ニ平和ヲ齎サント欲スル日本側ノ意嚮ニハ異議無キノミナラス寧口趣旨トシテ贊成ナルニ付重慶政府モ何等カノ形式ニ依リ速ニ和平實現方ニ努力スルコト可然ト勸奨セル模様ナリ右英國側ノ

態度ハ種々ノ形ニ於テ通信セラレ居ル様子ナル處當地識者ノ間ニハ右ヲ以テ英國政府カ重慶政府ヲ見放シ居ル事實カ表面化セルモノナリトノ觀察スル向モアリ  
米ヘ轉電セリ

~~~~~

1917

昭和15年 7月16日

在ラングーン久我領事より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマ政庁が重慶側ニラシオの滞貨一掃を要  
求したとの情報は確実と認められる旨報告

ラングーン 7月16日前発

本省 7月17日前着

第一四九號

往電第一四六號ニ關シ

緬甸政府カ支那側ニ對シ一週間以内ニ滞貨一掃方ヲ要求シタリトノ「ラシオ」諜報ノ眞偽ニ關シ諜者ヲシテ當地西南公司側ニ就キ探ラシメタルニ右カ確實ナルコトヲ確メタリ尙蘭貢市外東部貨車驛ノ街路及廣場ニハ支那行「トラツク」群(此ノ内ニハ「ペトロウル」入大樽ヲ積込中ノモノ多數アリ)ニテ充滿シアル外附近組立工場ニテハ盛ニ組立

ヲ急キ居レリ

英支側ニ於テハ出來得ル限り禁輸實施ヲ引延シ其ノ間ニ滯貨ヲ一掃スヘク策謀シ居ルコト明瞭ナルニ付此ノ際英國側ヲシテ一刻モ速ニ禁輸ヲ實施セシムルコト緊要ト存セラル

1918

昭和15年7月16日  
在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマルート封鎖問題に関する米國國務長官  
の記者談話について

ワシントン 7月16日後発  
本 省 7月17日後着

第一一〇一號

「ハル」國務長官ハ十六日ノ記者會見ニ於テ緬甸通路禁絶問題ニ對スル見解ヲ質問セラレタルニ答ヘ米政府ハ世界ノ凡ユル部分ニ於テ通商路ノ開放セラレ居ルコトニ正當ナル利益ヲ有シ且最近佛印鐵道ニ關シ取ラレタル措置力眞實ナリトセハ右ハ世界通商ヲ妨害スル是認シ難キ措置ナリト思考スト述ヘタル趣ナリ

英ニ轉電シ紐育ヘ郵送セリ

1919

昭和15年7月17日 署名

援蔣ルート封鎖に関する日英協定

CONFIDENTIAL MEMORANDUM

As a result of discussions which have been proceeding between His Majesty's Government in the United Kingdom and the Imperial Japanese Government in regard to the transport of war materials through British territory to China, agreement has now been reached as follows:

Hongkong

The export of arms and ammunition from Hongkong has been prohibited since January 1939 and none of the war materials to which Japanese Government attach importance are being exported. The categories of materials prohibited in Burma will also be prohibited in Hongkong.

Burma

At the instance of His Majesty's Government in the United Kingdom the Government of Burma agree to suspend the transit through Burma to China of the

following material for a period of three months beginning Thursday, July 18th, 1940: arms, ammunition, petrol, trucks and railway material. This prohibition will not apply to petrol required (a) by lorries transporting non-prohibited goods on their journeys into China and back again: (b) by aircraft operating the Rangoon-Chungking Air Mail Service.

These arrangements have been offered by His Majesty's Government on the understanding that during the period of three months mentioned above special efforts will be made to bring about a just and equitable peace in the Far East: at the end of this period His Majesty's Government remain free either to continue or discontinue this arrangement, in accordance with the conditions existing at the time.

The Japanese Foreign Minister stated that the Japanese Government had made, and would continue to make, every effort to bring about a just and equitable peace.

The Governments of Burma and Hongkong will inform the local Japanese consular authorities of the steps which they are respectively taking to give effect to the above-mentioned prohibition as regards Burma and to the prohibition in force in Hongkong on the export of materials in question.

(Signed) Hachiro Arita  
(Signed) R. L. Craigie

July 17th, 1940.



1920

昭和15年7月17日  
有田外務大臣より  
在英国重光大使、在米国堀内大使、在  
独国来栖大使他宛（電報）

ビルマ・香港ルート封鎖に関する情報部長談  
話の発表について

本省 7月17日発

合第一五五九號

十七日情報部長談トシテ左ノ通り發表セリ

『過般來英國領土經由支那向軍需資材輸送禁絶方ニ關シテ

日英兩國政府間ニ交渉中テアツタカ今般左ノ如ク妥結ヲ見ルニ至ツタ

一、香港ヨリノ支那向武器、彈藥ノ輸出ハ昭和十四年一月以降禁止セラレテ居ルカ日本政府ノ重視スル如何ナル軍需資材モ現在同地カラ輸出セラレテ居ナイシ將來モ輸出サレルコトハ無イ尙後述緬甸テ輸送ヲ禁止セラレル貨物ハ香港ニ於テモ輸出ヲ禁止セラレルコト勿論テアル

二、英國政府ハ七月十八日カラ向フ三ヶ月間武器、彈藥竝ニ「ガソリン」、「トラック」及鐵道材料ノ緬甸通過輸送ヲ禁止スル

三、香港及蘭貢ニ於ケル日本領事官憲ハ本件禁輸ヲ有效ナラシムル爲取ラルヘキ措置ニ關シテ英國官憲ト密接ナル連絡ヲ保持スル

(米ヨリ紐育、加奈陀、伯、亞ニ轉電アリ度)

(獨ヨリ伊、蘇ニ轉電アリ度)

(蘭貢ヨリ「シムラ」ヘ轉電アリ度)

1921

昭和15年7月17日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

英國政府は援蔣ルート封鎖に関する米國國務長官の談話を意外としながらも対日關係調整を急務と認識しつつある旨觀測報告

ロンドン 7月17日後発  
本省 7月18日後着

第一二四二號

往電第一二三九號ニ關シ

一、「ハル」長官ハ緬甸道路閉鎖ヲ以テ世界通商ヲ不當ニ阻害スルモノナリト述ヘタルハ單ニ質問ニ應シテ通商一般ノ問題トシテ答ヘタルモノニシテ必スシモ英側ノ讓歩ニ反對シタルモノトハ解セラレサルモ十七日各紙ハ何レモ大見出シヲ附シ右ハ恰モ英國政府ノ措置ニ反對セルモノナルカノ印象ヲ與ヘタルカ「タイムズ」外交記者ハ同長官ノ聲明ハ英政府當局ノ意外トスル處ニシテ本件ニ付テハ米政府ニモ經過ヲ通報シ居リ同政府ニ於テハ英側措置ヲ諒トシ居リタル筈ナリ本聲明ハ民主黨大會ニ於テ好評ヲ拍スヘキハ勿論ナルカ同長官カ國內消費ノミヲ目的トシテ斯ル聲明ヲ行フ譯無ク何レニセヨ日本政府ハ英政府以上ニ驚キタルヘシト述ヘタリ尙爾余ノ新聞モ同様本聲

明ヲ意外ナリトシ「ヘラルド」ノ如キハ英政府當局ノ見解ナリトシテ今次對日讓歩ハ軍需品ニ限定セラルル處英國ハ目下軍需品輸送ノ餘力無ク且日本ト事ヲ構フル意思無シ萬一日英衝突ノ際米國ニシテ英國ヲ支持スヘシト言フナラハ又格別ナルモ米國ニハ斯ル意嚮無シ依テ世界通商阻害云々ノ如キハ此ノ際第二次の問題ト見ルノ外無シ又支那大使ノ抗議ニ付テハ聯盟決議ニ基ク義務ハ多數國ノ協力ヲ前提トスルモノナルコトヲ指摘セラルヘカラストノ趣旨ヲ述ヘタリ尙「テレグラフ」ニ依レハ支那大使ハ英側措置ニ飽足ラス一時ハ辭意ヲ洩ラシタルモ思ヒ止マレル由

二、英國各方面ニハ對日關係調整ノ急務ナルコト漸ク廣ク認識セラレツツアリ此ノ爲ニハ日支和平ヲ促進スルコト目下ノ窮狀ヨリ脫スル最善ノ方法ナリトノ議論力ヲ得居ル有様ナルカ「スケツチ」誌上「キヤンディダア」(「スクルーテータア」ノ死後 (五分分アキ) 執筆ス)カ日英同盟ヲ想起シ往時ノ盟邦ノ友誼ヲ回復スル必要アリ支那ハ緬甸問題ニ付テ抗議シ又日本カ撤兵セサレハ講和セスト稱シ居ルモ右ハ眞面目ニ取ル必要ナク蔣介石ノ眞意ハ焦土抗

戰ニアラス又日支双方共戰爭ニハ倦ミ居レリ蘇聯ハ日支戰爭繼續ヲ欲スヘキモ英國トシテハ特ニ蘇聯ノ都合ヲ考慮スルニ當ラス支那トシテモ蘇聯ノ傀儡トナルハ好マサル所ナルヘク寧ロ日本ト妥協スルニ如カス英國ハ日支双方ト友好關係ニアルニ付平和回復ニ盡力シ得ヘシトノ趣旨ヲ論シタルハ其ノ一例ト認メラル

三、十六日外務省「スポークスマン」ハ日本ノ政變ハ夙ニ豫期セラレ居リタル次第ニモアリ右ハ日英交渉ニ何等影響セサルヘシ英國ノ日本ニ對スル調和政策ニ變更ナシト述ヘ居レリ

1922

昭和15年7月17日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

援蔣ルート封鎖に関する米國國務長官談話へ  
の英國政府対応振りについて

ロンドン 7月17日後発

本省 7月18日後着

第一二四六號

情報

往電第一二四二號ニ關シ

外務省極東部員ハ一兩日前内外新聞會見ニ列席シ緬甸道路問題ニ關スル英側讓歩ニ付テハ米國政府モ之ヲ是認シ居レリトノ趣旨ヲ述ヘタルカ當地米國大使館ニ於テハ米國ハ本件ニハ深く關知セス是認モ否認モセストテ無關心ノ態度ヲ示シ英國側カ頻リニ米國ヲ引合ニ出スヲ寧ロ迷惑トスルヤノ口吻ナリシ趣ナル處十七日「バトラー」次官ハ下院質問ニ對シ米國側ノ聲明ニハ關知セストノ態度ヲ示シタリ尙東京ニ於ケル「スポークスマン」カ本件ハ米國力關與スヘキ問題ニアラスト言ヘルハ英國外交當局ニハ好感ヲ與ヘ居レル由ナリ「ハル」長官ノ聲明ト關聯シ御參考迄尙「バ」次官ノ聯絡者ニ對スル談話中「同氏ハ十七日ノ下院ニ於テ英國ノ對支態度ヲ表明シ英國政府ハ支那ニ於ケル平和ノ回復ヲ希望スルモノニシテ英國ノ之迄有スル情報ニ依レハ日本ノ支那ニ對スル主張モ不條理(アンリゾナブル)ニアラスト思ハルル旨説明スル筈ナリシモ日本政變ノ爲交渉モ或ハ停頓スヘキヲ以テ右ハ中止セリ」トノ趣旨アリ政府ノ方針ハ大體右ニテ窺ハルル處他方十七日上下兩院ニ於テ本件ニ關スル質疑アリ「セシル」卿一派ハ頻リニ支那ノ立場ヲ

無視スル讓歩ニ反對ヲ唱ヘ居リ此ノ種極端派ノ運動ハ尙引續キ行ハルルヘキカ政府カ支那ニ於ケル平和回復ヲ表面ノ政策トセルハ平和回復ノ好名目ノ下ニ新政策ニ對シ勞働黨等ノ贊成ヲ獲得セントスル内政關係モアリトノコトナリ  
米ヘ轉電セリ

~~~~~

1923

昭和15年7月18日  
有田外務大臣より  
在本邦クレギー英國大使宛

ラシオ發雲南向け軍需物資輸送激増の情勢に  
も鑑みビルマルートの有効的禁圧につき十分  
の措置を講ずるよう要請について

歐ニ普通第一一八號

以書翰啓上致候陳者帝國政府ノ接受セル情報ニ依レハ最近武器「ガソリン」貨物自動車ヲ積載セル列車續々「ラシオ」ニ到着シ之等ハ同地倉庫ニ堆積セル武器等ト共二雨天ニモ拘ラス殆ト終日終夜間斷無ク數百臺ノ「トラック」ヲ以テ雲南向輸送セラレ居ル由ニ有之候就テハ今般緬甸經由支那向軍用資材輸送禁絶方實施ニ當リテハ右様ノ情勢ニモ鑑ミ之カ有效的禁遏ニ付キ特ニ充分ノ措置ヲ講セラレ度候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬 具

昭和十五年七月十八日

外務大臣 有田 八郎

大不列顛國特命全權大使

「ゼ、ライト、オノラブル、サー、ロバート、

クレイギー」閣下

~~~~~

1924

昭和十五年 7月18日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマルート封鎖に関する英国首相の下院で

の説明振りは対日非難を一切避け日本の立場

了解の姿勢が認められる旨報告

ロンドン 7月18日後発

本 省 7月19日後着

第一二五三號

一般的情報

十八日「チャーチル」ノ下院ニ於テ爲シタル緬甸問題ニ關  
スル聲明(特情御參照)ハ之ヲ英政府當局過去ノ聲明ト比較

スレハ其ノ用語ノ上ノミナラス實質ニ於テ格段ノ進歩ヲ示  
セルモノト言フヘク即チ一方ニ於テ重慶政府支持論者(議  
會ニ於ケル聯盟主義者ノ多數ハ右ニ屬ス)ヲ刺戟セサル様  
努ムルト共ニ他方輿論ノ現狀ニ於テ出來得ル限り我方ニ對  
シ好意ヲ表シタルモノノ由ニテ日本ノ行動ヲ非難スルカ如  
キ言辭ヲ一切避ケ日本ノ立場ヲ了解シタル建前ノ下ニ公正  
ナル平和ノ可能性ヲ説述セルハ一般ニ注意ヲ惹キタリ  
米ヘ轉電セリ

~~~~~

1925

昭和十五年 7月19日

在ニューヨーク若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

ビルマルート封鎖に関する英国首相の下院で

の説明振り報告

ニューヨーク 7月19日後発

本 省 7月20日前着

第四六九號

十八、九日當地朝夕刊各紙ハ倫敦十八日發諸電ニヨリ英下  
院ニ於テ「チャーチル」首相ハ緬甸路ノ閉鎖ハ對日緊張ヲ  
緩和シ又日支兩國力和解ニ到達スル時間ヲ與ヘントスル意



圖ニ外ナラスト辯明シ尙英ハ日支和平成立ノ曉ニハ支那ニ  
於ケル治外法權撤廢英ノ在支權益引渡及條約改正ノ用意ア  
リト述ヘタル旨ヲ報シ居レリ  
米ヘ郵送セリ

